



おの・ゆうり 01年(平13年)早大一文卒。05年ユースムコンサルティング代表、16年タイヤモンド電機社長、18年タイヤモンドエレクトリックホールディングス社長。大阪府出身。44歳。1月22日就任。

【抱負】「田淵電機は太陽光発電向けのパワーコンディショナー(電力変換装置)などの電子機器に強みを持っている。祖業であるトランスも多くの家電製品に使われている。蓄電システムはまだ伸びる余地がありそうだ」

### 社屋移転で交流を活性化

「タイヤモンド電機がある大阪市の塚本に移転先を取得しており、秋までに田淵電機の社屋を移転させる。これまでに経営陣と社員や社員同士の交流を深めて活性化させていくつもりだ」

## トピックス 横顔

経営は一緒に汗をかくことだ。社員も『従業員』『使用者』ではなく一緒に働く『仲間』だ

「専門性が強いエンジニアは、まったく畑違いの分野に移るような転職活動が苦手な人も多い。そこで、優秀な人材には『まずは3カ月、うちで学識と知見を養ってほしい』とお願いしている。違和感があれば言ってほしい」

「一般的には『買収・子会社化』だが、我々は『救済・仲間化』と呼んでいる。キャリアあることを伝えると40〜50人に来てくれた」

「多くの自動車部品メーカーがEVシフトを進めるが、先進国と違ってガソリン車の需要も強いアジアやアフリカといった途上国の市場を放棄するわけにはいかない。タイヤモンド電機が手がけているガソリン車向けの点火コイルなどは、二酸化炭素(CO2)削減に関する技術開発などを通じて市場に貢献していきたい」

【趣味】「中学時代からラグビーを続けてきた。早稲田大ラグビー蹴球部のコーチも務めた。9月のワールドカップ(W杯)では日本代表の活躍を楽しみにしている」  
(聞き手は川崎なつ美)

# 「新大阪連合」で仲間の輪

【経歴】「新たに田淵電機をグループ会社としたタイヤモンド電機では、若手社員教育のコンサルティングに携わったことから創業家の池永重彦元社長の要請で社長に就いた。就任前には経営不振で2割の従業員が離れたなか、優秀なエンジニアを集め、経費の見直しなどを徹底して1年9カ月で経営再建を果たした」

「経営不振が続いていた田淵電機は昨年、私的整理の一種である事業再生ADR(裁判以外の紛争解決)制度の利用を申請した。それまでタイヤモンド電機と田淵電機の間取引関係はほとんどなかったが、本社は偶然にも新大阪駅周辺で同じだった」

## 蓄電システムや車載関連磨く

「工場で働くことが多い製造業の社員にとって、企業への就職は工場への就職を意味することが多い。子